

当院で実施される下記の臨床研究はオプトアウトにより実施します。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、これらの研究にご自身の診療情報を使用してほしくない場合は各研究の担当者までお問合せください。

<p>研究課題 (承認番号 2024013)</p>	<p>経皮的僧帽弁形成術後の心不全患者における術前歩行速度と生命予後の関連</p>
<p>担当科及び研究責任者</p>	<p>リハビリテーション部 福田大空</p>
<p>利用目的</p>	<p>近年、低侵襲の弁膜症治療の普及に伴い、術前の状態が不良な方に対しても治療対象が拡大してきています。僧帽弁閉鎖不全症に対しても2018年に MitraClip が国内で医療保険適応となりその成績や予後予測指標が徐々に報告されてきています。術前のフレイル（虚弱）も予後予測の指標として知られ、開胸術や TAVI（経皮的動脈弁留置術）と同様に報告されています。しかし、MitraClip においては国内における歴史が浅く、その評価項目である歩行や握力について詳細に言及されていないのが現状です。術前の身体機能と生命予後について詳細に検討しておくことは周術期リハビリの立案において有益な情報となり得ます。そこで今回、MitraClip を受けられた患者さんを対象として、術前身体機能、特に歩行速度と生命予後についての関係性を明らかにすることを目的として統計解析を実施します。</p>
<p>研究の対象者及び対象期間</p>	<p>対象期間：2019年～2027年（予定） 対象者：当院で経皮的僧帽弁形成術（MitraClip）を施行された方</p>
<p>研究の方法</p>	<p>当院で経皮的経皮的僧帽弁形成術（MitraClip）を受けられた方のデータを使用します。術前に行われた歩行などの身体機能検査が術後の生存日数にどれだけ影響を与えたのか後ろ向きに評価します。また、他に要因する影響がないか、また、その要因を調整因子として検討するために、保険診療上得られたデータも使用します（年齢、性別などの基本情報、心臓エコー検査、術中の情報、在院情報など）。</p>
<p>問合わせ先</p>	<p>代表：048-536-9900</p>

備考	
----	--